

「 表現の自由の大切さとは 」

三田市 匿名希望

数年前からネット上で話題にされてきた「人権擁護法案」だが、これによって表現の自由がおびやかされようとしていた。人権侵害となり得る可能性のある表現が含まれた表現物に規制をかけようという法案だ。

人権と表現の自由が衝突することはしばしばあることではあるが、その事の為だけに表現の自由に規制をかけてしまっても大丈夫なのだろうか。

私は先に述べたような法案の形で規制をかけるのはあまり良い考えではないと考える。憲法二十一条で国家に制約をかけているのにも関わらず、法案を通してしまえば憲法が意味をなさなくなる可能性があるからだ。

更に、表現の自由が国民に保障されなくなることには、非常に恐ろしい結末が待っている。明治憲法下の日本では、人々に表現の自由はなく、治安維持法などで天皇や政府への反対意見は取り締まられていた。捕まった後は死刑にされることも多かったという。当時の選挙も形式だけのものであり、例え国政が悪い方向へ向かおうとも、国民は罰則をおそれて意見を言えなかったのだ。

もし、表現の自由が無かったら、自由な意見も言えないし、書けない。もしかしたら、マンガやドラマ、小説など様々な文化が衰退していくかもしれない。内容は当たり障りのないものになってしまうかもしれない。問題は山積みなのだ。

しかし、私達は普段、表現の自由がもつ良さを実感することはあまりない。以前学校でとったアンケートでも「普段の生活において表現の自由が表現されていて良かったと思う人」はそう感じない人の約二分の一だった。そもそも、憲法にふれる時間は少ないように思う。

人権擁護法案に対しての議論は大きくならなかった。その背景には表現の自由がもつ良さがあまり知られていないから、という理由も考えられる。だから、もっと憲法の重要性や良さを皆に教えていくことが必要だと考える。また、法律によって表現の自由を奪われないためにも、やはり人権と憲法への意識を高めていくことが大切だ。